

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/04/03 作成 (株)新出光

【概況】＜イラクとトルコを結ぶパイプラインの稼働停止＞

●24日、米ブルームバーグ通信は23日、ロシアの新興財閥(オリガルヒ)が経済制裁を逃れる手助けをした可能性があることから、米司法省がスイス金融大手のクレディ・スイスとUBSを調査していると報じました。両銘柄が売られると、ドイツ銀行など欧州主要銀の経営を巡る懸念も台頭。一部の銘柄が急落し、投資家のリスク警戒感が強まり相場は69.26ドルへ下落しました。

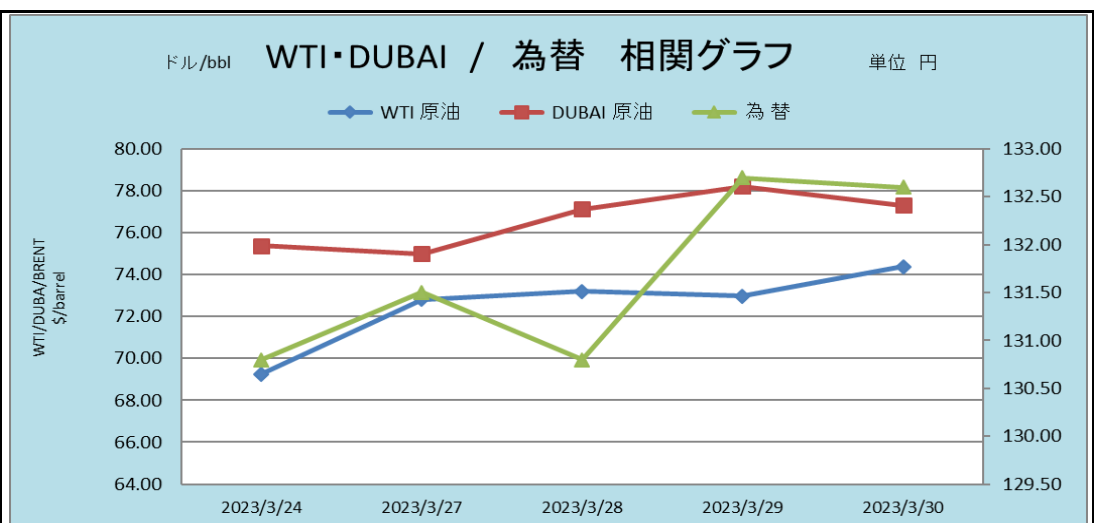
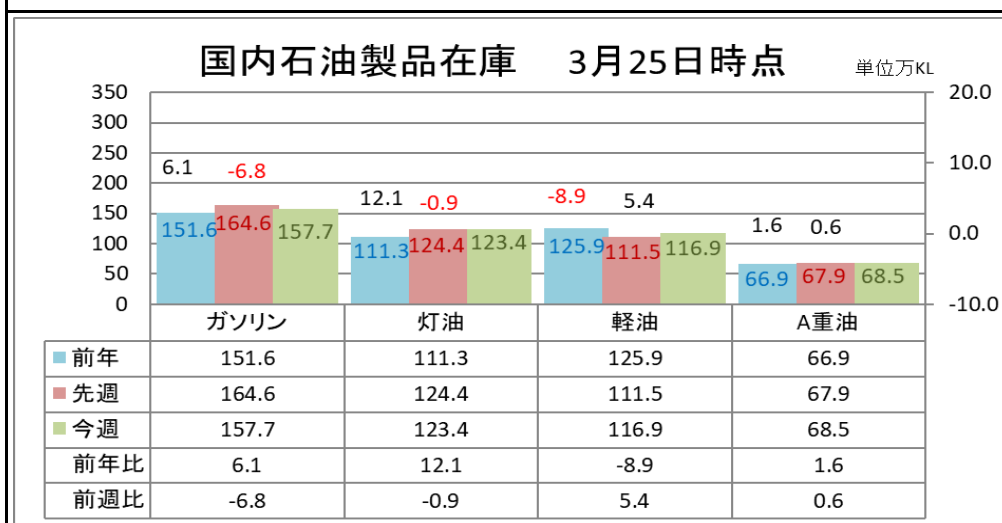
●27日、イラク北部のキルクーク油田とトルコのジェイハンを結ぶ原油パイプラインの稼働が25日に停止。両国のパイプラインを巡る仲裁裁判でイラクの主張が認められたことから、トルコ側が対応したという。この報を受けて、エネルギー需給逼迫懸念が強まり、買いが入り相場は72.81ドルへ反発しました。キルクーク油田はクルド自治区内にあり、仲裁裁判ではイラク政府の同意なしの輸出の是非が争われていました。

●28日、中国石油天然気集団(CNPC)の調査部門、中国石油経済技術研究院(ETRI)は27日、今年の原油輸入量を6.2%増の5億4000万トン(日量1080万バレル)と予想。同国の新型コロナウイルス感染拡大防止策緩和に伴うエネルギー需要拡大への期待感から買いが先行しました。イラクのクルド自治区内にある油田からトルコを経由するパイプラインの稼働が先週末から停止しており、供給懸念が高まっていることも原油の買いを促し相場は73.2ドルへ続伸しました。

●29日、米エネルギー情報局(EIA)がこの日発表した最新週の原油在庫は前週比750万バレル減と、市場予想(ロイター通信調べ)の10万バレル増に反して大幅な取り崩しとなりましたが、原油先物相場は不安定な商いとなったものの、終盤にかけて利益確定の売りが優勢となり、相場は72.97ドルへ下落しました。

●30日、米原油在庫の減少に加えイラクのクルド自治区内にある油田からトルコを経由するパイプラインが稼働が依然停止している事が材料視され相場は74.37ドルへ反発しました。石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」の代表団筋はロイター通信に対し、4月3日の会合では現行の減産方針が据え置かれる可能性が高いとの見方を示しました。

3月31日 16:00現在 WTI原油 74.30ドル 為替 1ドル 134.53円



	次回元売変動予測	
	4/6~	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.5
灯油	➡	+0.5
軽油	➡	+0.5
A重油	➡	+0.5
LSA	➡	+0.5

※原油コスト「+3.5円」
 ※激変緩和補助金「-11.1円」前週比-3.0
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】＜三菱重工が世界初、液体窒素を冷熱エネルギーに発電実証成功＞

三菱重工業は、子会社の三菱重工業マリンマシナリ(長崎市)と、有機ランキンサイクル(ORC)発電で用いる完全密閉型オイルレス構造のタービン発電機を冷熱発電に応用した100キロワット級発電の実証試験に成功した。通常の液化天然ガス(LNG)ではなく、さらに低温の液体窒素を冷熱エネルギー源に利用した。同様の事例は世界初という。今回の実証実験により、冷熱発電の冷熱エネルギー源として液体窒素を使用することで、通常のLNG冷熱発電に比べてさらに低温の厳しい条件下でも、凍結による閉塞などを生じずに冷媒サイクルの安定性や所定の回生出力が得られることを証明されました。この実証実験の結果、LNGや液体窒素などの極低温媒体の相変化や、冷媒サイクル特性の把握、制御性の確認ができた。こうしたことから、さらなるLNG冷熱発電システムの安定化と、信頼性向上が見込める。また、脱炭素燃料として有望視されている水素(沸点:およそ-253℃)の冷熱発電への応用などが期待できるとの事。同発電機は、独自に開発しており、冷媒を系統の外に漏洩させない気密封止構造(ハーメチック構造)や、オイルレス磁気軸受を採用している。冷熱発電向けに改良し、LNG冷熱発電で使用されるこれまでのタービン構造(軸貫通部のある蒸気タービン型で、軸受が強制給油スリーブ軸受である点)と比べ、高い信頼性、省スペース性を有し、メンテナンスフリーという特長を持つ。今後、未利用の冷熱、排熱を有効活用する新たな発電事業の創出を目指す。また、温室効果ガス排出削減、環境保護に寄与するソリューションの開発を進めていくとの事です。

[出典]

① https://engineer.fabcross.jp/archive/230302_mhi.html